
親愛なるあなたに

桜華蒼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

親愛なるあなたに

【ノーノード】

N2088E

【作者名】

桜華蒼

【あらすじ】

タイトル通り新哀です……（笑）誕生日設定。

おめでとう、といつ言葉が聞きたくて、誕生日前日から博士の家にいる俺はかなりのアホだ。

目が覚めたら、ケーキがあれば嬉しい。それとプレゼント。子供の頃、感じたわくわくする気持ちを思い出す。だけど、本当は灰原がいてくれればそれでいい。

誕生日のことを覚えていてくれたなら。

「客間、片付けたわよ」

そつと髪をなでる手の心地よさに俺はソファーにもたれて寝たふりを決め込む。

「こんなところで寝たら身体きついわよ？」

「…」
眠りを妨げないような優しい柔らかい聲音。ちょっとだけ甘えてみたくなる。

俺はそのまま、灰原にもたれかかった。

「……寝呆けてるのね」

困ったひと。と灰原は払い除けずにそのままソファーに腰掛けた。そろりと頭をもたれて、横抱きにされ、薄田を開けると、驚いたことに膝枕状態。

そして、頭を撫でられる。何度も何度も。どっちが子供かわからんねえな。

「明日、あなた誕生日ね」
ふと灰原はつぶやいた。

「ありがとう」

「あなたがいてくれて嬉しいわ。

続けられた言葉にじんわりと胸が熱くなる。

「ケーキもプレゼントもないけど」

彼女の顔が唇が近付く。

ちゅ、と額に音を立ててキスされた。

思わず身じろぎすると、

「……薄田あけないでよ」

灰原はクスクス笑う。

「気付いてたんだ」

田を開じたまま俺は聞いた。

「ええ、あ。おめでとう誕生日」

「すごく棒読みじゃね？」

「そうかしら？ 普通よ」

田を開けると、頬を薄紅色に染めた灰原がいて。

俺は、何だか幸せな気分で灰原を抱き締めた。

END

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2088e/>

親愛なるあなたに

2010年10月10日08時18分発行